

2024年5月16日

通貨ニュース

インド：世界株式指数におけるインド株式の組み入れ銘柄数が大幅に増加

過去の通貨ニュース(*)では、インド国債の指数組み入れに関する分析を行った。かかる中、株式市場においても、インドへの期待が高まるイベントが発生している。MSCIは14日(日本時間では15日朝)、同社が算出する株価指数の四半期見直しの内容を公表した。組み入れ銘柄の変更は、5月31日に有効となる運びだ。本欄では、銘柄変更の外観と、特にインド金融市場への含意について触れたい。

代表的なオール・カンントリー・ワールド・インデックス(ACWI Index)の構成銘柄変更に関し、目立ったのは以下の点だ。まず、中国の銘柄数が703から657に46も減ったことだ(図表1)。次に日本に関しても、217から203に14も減少している。他方、最も増えたのはインドであり、136から146へ増加した。日本の組み入れ銘柄数減少に関しては、15日に複数の報道機関が取り上げており、円安と絡めて論じる向きが大勢のようだ。上記の指数は、新NISAで最も人気のある投資信託が採用するインデックスであり、相応の注目を集めているのだろう。

インドに関しては報道によってまちまちだが、組み入れ銘柄増加を受け20~25億ドルの海外投資家資金が新たに流入するとみられる。インド株式の代表的な指標であるSensexは、堅調な域内経済、良好な人口動態などを背景とした将来への期待感の高まり、INR安などを受け過去最高値を断続的に更新しているが、今回のMSCIの決定はさらなる買い材料として中期的に意識される可能性が高い(図表2)。足許では、インド総選挙を前にした不透明感の高まりや、グローバルな金利上昇などが嫌気され上値が重い印象だが、こうした要素が剥落すれば、再度上昇基調に回帰できると想定する。実際ブルームバーグの試算によると、先物市場では、ネットで見ると2012年以来で最大のショート枚数が溜まっている。これが巻き戻せば、過去最高値の更新は時間の問題だろう。

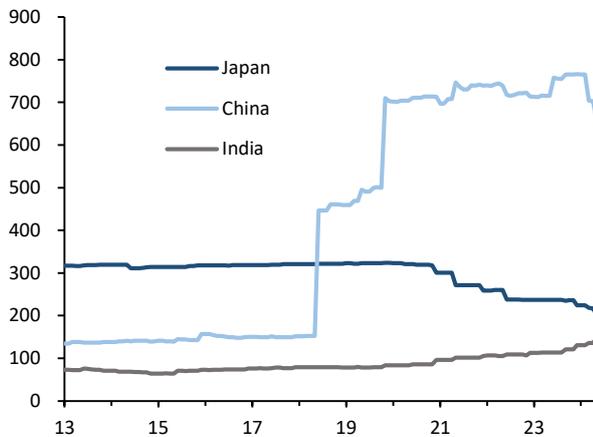
また、全世界ではなく新興国の枠組みで、なおかつ組み入れ銘柄数ではなくウェイトを見た場合、中国は25.4%から25.0%へ、インドは18.2%から19.0%へ変化する見込みだ。インドに関しては、2020年には8%にしか過ぎなかったこともあり、ここ数年の飛躍がよくわかる。中国経済の長期停滞論も市場では囁かれる中、世界経済の次なるけん引役としてインドを推す声は一般社会においても非常に多い。弊行の聞き取り調査でも、ビジネスの進出先としてインドを検討する声は明らかに増えている。さらに、モディ政権が「メイクインインディア」を掲げ製造業の発展を志向する中で、世界的な企業がインドに拠点を構えるとの報道も定期的に聞こえてきている。

こうした中、インド株式・国債市場への資金流入は今後も期待できると考えており、こういった投資フローはINRの下支えとなろう。短期的にはインド・米国の金融政策当局の動向やインド準備銀行(RBI)による為替介入の影響が大きいのだろうが、中長期的な目線では、INRは水準を切り上げると考えている。

金融市場部
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

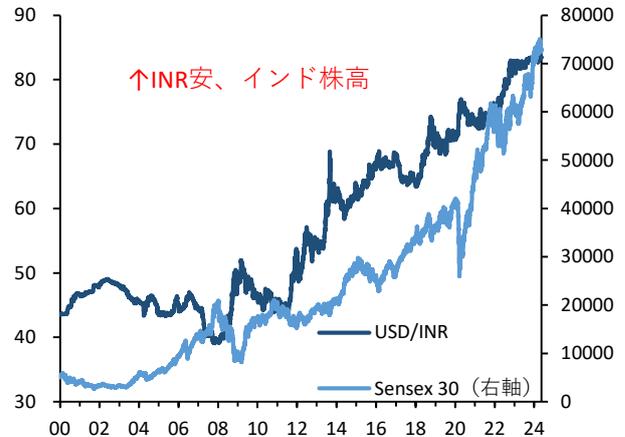
*詳細は、2024年5月14日発行の通貨ニュース、『インド:インド国債の指数組み入れに向け高まる期待感』をご覧ください。

図表 1: グローバルスタンダード指数への組み入れ銘柄数



出所: MSCI、Macrobond、みずほ銀行

図表 2: INR相場と Sensex 指数の推移



出所: Macrobond、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。